

こころをつなぐ日

4月23日(火)は、「こころをつなぐ日」です。

12年前の2012年4月23日、児童が登校している列に突然車が突っ込んできました。児童や保護者の方を含め、4名の尊い命が失われ、7名の子どもたちが大きなけがを負いました。

安詳小学校ではそれ以降、4月23日を「こころをつなぐ日」として、命の尊さと安全の大切さ、人を思いやる気持ちについて考える機会として、とても大切にしています。

□全校児童共同制作「メモリアルワーク」

今年度は「かがやき」をテーマとして、全校児童共同で「メモリアルワーク」を作成しました。完成した作品は、体育館入り口に掲示し、児童がふと立ち止まって命の「かがやき」について、自分を振り返ったり考えたりできるようにしています。



【メモリアルワーク】

□ベゴニアの花植え

ふれあい委員会のメンバーがサポートしつつ、1年生の児童でベゴニアの花をプランターに植えました。お兄さんお姉さんのアドバイスをもとにして、丁寧に苗のまわりに土をかぶせていく1年生の姿が印象的でした。



【花植え】



□道徳科の学習

学級ごとに、命の尊さを感じたり考えたりする道徳科の学習を行いました(4年生は、毎年ご遺族のお話をもとにした紙芝居「まおちゃんの新しい靴」を活用して学習しました)。



【道徳科の学習】



この取組をきっかけにして、全校児童754名が、家族や仲間や教職員、そして地域の方々と少しずつ少しずつ心をつなげ、そのつながりを広げていけるように見守っていきたいと思います。